

Okubo, M., Ishikawa, K., & Kobayashi, A. (2013).
 A smile enhances male facial attractiveness for
 long-term relationships but not for short-term relationships.
 9th International Conference on Cognitive Science,
 Hilton Kuching Hotel in Kuching, Sarawak, Malaysia.

大久保 街亜

この研究成果は2013年8月27日から31日まで、マレーシアのサラワク州クチンで開催された9th International Conference on Cognitive Scienceで発表された。サラワク州はマレー半島ではなく、ボルネオ島にある。ただし、学会が開催されたクチン市は、海沿いではなく南シナ海に流れ込む大きなサラワク川沿いに発展した街である。クチン市はサラワク州の州都であり、マレーシア第2の都市で中心地は高層ビルもあるビジネス街である。ボルネオ島という言葉からイメージされるリゾートではない。ただし、かつてのイギリス占領下の町並みもまだまだ残っており、大都会の無機質さはない。まさに今急成長を遂げているアジアのエネルギーを感じる街かもしれない。

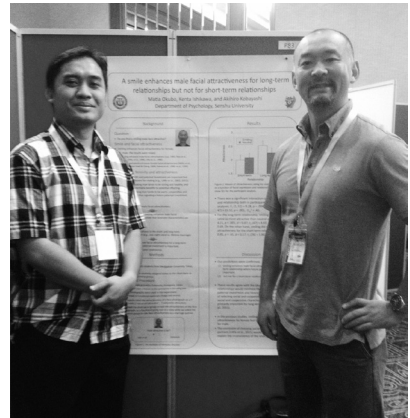


図1：ICCS2013におけるポスター発表の様子

学会大会は、マレーシア国立大学サラワク校が中心となって準備がされた。マレーシアの人々のゆったりとした親切な人柄とホスピタリティが感じられる運営であった。ポスターではさまざまな議論が行われ、トークのセッションでは白熱した討論がなされた。大会規模はそれほど大きくはなかったが、だからこそ、参加者の間で内容のある中身の濃い議論を行うことが出来た。また、認知科学という学際的な分野であるため、心理学だけでなく計算機科学、神経科学の研究者も参加しており、そのような隣接分野の研究者との議論も行えた。もし、これが大規模の学会であったなら、隣接分野の研究者と議論を重ねることはそれほど簡単ではなかっただろう。

われわれの研究成果発表は、ポスター形式で行った。当日の学会発表の様子が図1である。ポスターは指定された発表日に1日中掲示しておくことが求められた。在席責任時間こそあったものの、あまり厳密なものではなく、いつでも好きな時間に来て、ポスターの前で議論をかわした。今回のテーマは男性の外見の魅力と笑顔の効果について、進化心理学的な観点から検討したものであった。魅力という、分野外のひとの興味もひきやすいトピックであったため、さまざまな研究者が我々のポスターにきて、さまざまな質問やコメントをしてくれた。また、国際学会である

ため、日本で行った我々の実験結果について、他の文化圏に属する研究者から大変刺激的なコメントを受けた。現在、この成果はある国際的な英文論文誌に投稿中であるが、この文化に関する議論は、論文の執筆においても大変役に立った。